研究者総覧：鷲見 幸美 (SUMI, Yukimi)

氏名	鷲見 幸美 (SUMI, Yukimi)	
職名	准教授	
所属講座	日本言語文化専攻日本語教育学講座	
学位（専攻分野）	博士（学術）・名古屋大学	
メールアドレス	ysumi@lang.nagoya-u.ac.jp	
個人のホームページ	http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~ysumi/	
研究分野	現代日本語学（意味論）	
	日本語教育	
現在の研究テーマ	類義語分析・多義語分析・日本語学習者の語彙知識	
所属学会	日本語教育学会	
	日本認知言語学会	
	日本語文法学会	
主要著書・論文	「多義語「見違える」の意味の動態」、『日本語日本文化論集』第 17 号、名古屋大学留学生センター、41-59、2010 年	
	「ミトオスの意味構造——使用依拠モデルに基づくネットワークの記述」、森雄一他編『ことばのダイナミズム』、くろしお出版、139-154、2008 年	
	「移動動詞に見る物理的空間の主観的把握——「出る」「入る」「横切る」を例として」、『言語文化研究叢書』7、名古屋大学国際言語文化研究科、81-95、名古屋大学国際言語文化研究科、2008 年	
	「類義語ミトオス・ミヌクの意味分析——心はどこに隠れているのか」、『言語文化論集』第 29 巻第 2 号、名古屋大学国際言語文化研究科、361-376、2008 年	
	「移動を表す類義表現」『日本認知言語学会論文集』第 5 巻、日本認知言語学会、584-587、2005 年	
自己紹介文	人間と言葉に関わることが好きなので、日本語教師になりました。「日本語教師としてもっと成長したい」という思いから大学院に入りましたが、在学中に日本語分析の面白さに目覚め、研究も続けることにしました。大学院生時代から今までずっと現代日本語を対象として意味の研究をしています。 我々は「見たまま」を言葉にしているつもりでも、実は「日本語の見方」の影響を受けて物事を見ています。また、目に見えないものや形のないものであっても、まるで目に見えるものであるかのように言葉にしています。我々日本語母語話者がどのように世界を「見て」い	

<table>
<tr>
<td></td>
<td>るのかを解き明かしていくことができる、それが意味分析の魅力です。
外国語として日本語を学習する人たちにとって、日本語の語彙学習の負担は非常に大きなものです。特に、類義語や多義語の意味の習得は困難です。日本語学習者が類義語や多義語の意味をどのように習得しているかを知り、どのような指導があれば習得が容易になるかを探ることも現在の関心事です。
動物、自然も大好きです。毎日愛犬と戯れ、数ヶ月に一度は山や海に出かけて、リフレッシュしています。今はホエールウォッチングにはまっていて、シーズンには高知土佐湾にニタリクジラ、沖縄座間味にザトウクジラを見に行っています。

2011 春　座間味ザトウクジラ</td>
</tr>
<tr>
<td>受験生へのメッセージ</td>
<td>研究者になりたい人だけでなく、日本語を教えたいと思っている人、日本語教師としてスキルアップしたい人、大歓迎です。バックグラウンドや入学の動機は問いませんが、明確な問題意識を持って大学院に入学してください。
研究者としては、「一つのことをとことん究める」という姿勢で、自分の専門性を高めていくことが求められます。それは、決して「自分の研究テーマに関係のないことは無駄なこと」ということではありません。「一つのことを究める」には、その一つのことをさまざまな角度から捉えるための「たくさんの引き出し」が必要なのです。隣の人の研究に耳を傾けてください。ちょっと興味を持った講演会、研究会を覗いてみてください。タイトルに引かれた本を開いてみてください。思わぬところにヒントが転がっているものです。
研究者志向の人にも、日本語教師志向の人にも、「研究も教育もできる人」になってもらいたいと思っています。大学院修了後、もっぱら「研究」だけをする職につく人はほとんどいませんから、教授能力は必要です。また、現場でのさまざまな問題を解決するためには、研究

2010 春　日本法教育研究センター・カンボジア（王立法経大学）訪問</td>
</tr>
</table>

	能力も必要です。日本語教育実習や日本語講師インターンなど、日本語教育を実践する機会も積極的に活用してください。実践から得るものはたくさんあります。 　日本語を研究することの面白さや日本語を教えることの面白さを共有できる人との多くの出会いを楽しみにしています。